

マーシャル諸島

— 終わりになき核被害を生きる

3・11 福島第一原発事故後に生きる私たちは何を学ぶのか

今年は米国がマーシャル諸島で核実験を開始して 70 年目にあたります。ビキニ環礁を含むこの地域では、米国の核開発のために 1946 年から 1958 年まで 7 つの作戦で 67 回もの核実験が行われました。第五福竜丸も被曝した 1954 年の水爆実験「ブラボー」はその中の一つで、広島型原爆の 1000 倍の破壊力をもっていました。これらの実験により、マーシャルの住民と共に大地が被曝し、地域、社会、文化、生活がどのように破壊されたのか、日本ではあまり知られていないのではないのでしょうか。

2014 年 4 月マーシャル諸島共和国は、核保有国が核不拡散条約の課す核軍縮義務を怠っているのは国際法違反だと、核保有国を国際司法裁判所に提訴しましたが、「管轄権」がないと訴えは退けられました。

マーシャル諸島の現状とたたかいは、3・11 原発事故とその後を生きる私たちにとって、被曝そして核兵器廃絶とどう向き合うのか問いかけるものとなっているのではないのでしょうか。現地に通りグローバルな視点で核問題を研究してきた竹峰さん、高校在学時にフクシマを体験した長島さんとともに、私たちは何をすべきか、何ができるのか一緒に考えませんか。ご来場をお待ちしております。

日時

11月26日 土

14:00 開会、16:00 終了予定

場所

埼玉教育会館

104 号室

* 参加費無料

主催

非核の政府を求める埼玉の会

さいたま市浦和区高砂 2-3-10 黒澤ビル 3 階

連絡先：090-1767-0196

メール：hikakusaitama@amail.plala.or.jp



講師

竹峰誠一郎さん

明星大学人文学部

人間社会学科常勤准教授

1977 年兵庫県生まれ。早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程修了。和光大学 4 年生の 1998 年からマーシャル諸島に通い続け、現場にこだわった核被害の研究を進める。グローバルヒパクシャ研究会共同代表、第五福竜丸平和協会専門委員。著書に「マーシャル諸島 終わりになき核被害を生きる」、「核時代のマーシャル諸島—社会・文化・歴史、そしてヒパクシャ」、「＜市民講座 いまに問う＞ヒパクシャと戦後補償」他。



聞き手

長島 楓さん

大学 4 年生

福島の高校在学時に体験した 3.11 事故を契機に、福島の声伝える朗読グループ「たねまきうさぎ」を結成。福島県高校生平和ゼミナールにも参加。2014 年にはマーシャル諸島を訪れ現地の人たちと交流。ドキュメンタリー映画「種まきうさぎ フクシマに向き合う青春」にも出演した。

